

令和5年度気仙沼市病院事業の取組に係る 点検及び評価報告書 資料編



各取組項目については、以下の区分で評価をしています

評価区分

A	定量的な目標	計画どおり目標が達成され、評価できる
	定性的な目標	組織一丸となってこれまで以上に取り組み、評価できる
B	定量的な目標	計画どおりの目標は未達成であるが、目標値に近く、やや評価できる
	定性的な目標	特定の部署が、これまで以上に取り組み、やや評価できる
C	定量的な目標	目標達成に向けた取組が不十分で、計画が未達成であり、今後の取組に期待する
	定性的な目標	これまでの取組と特に変わらず、今後の取組に期待する
D	定量的な目標	目標達成に向けた取組方法についての検討段階であり、今後の取組に大いに期待する
	定性的な目標	これまでの取組より活動量が減り、今後の取組に大いに期待する
E	定量的な目標	未実施
	定性的な目標	未実施

※ 気仙沼市立病院新改革プランに基づいた経営・業務改善策を継続していることから、新改革プランの項目について、令和4年度との比較により評価するとともに、病床利用率や経常収支比率といった具体的な数値は、新改革プラン最終年度の令和2年度数値を参考値として記載しています。

経営の効率化に向けた取組状況とその評価

気仙沼市立病院

病床管理の適正化，診療部門と医事部門の連携及び未収金対策の強化を継続し，経営の効率化に病院全体として取り組んだ結果，医業収益及び病床利用率は，過去最高を記録しました

市立病院 経営の効率化に向けた取組（1）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実施状況	各年度の評価							
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	
市立病院	収益向上策	病床管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 病棟ごとの目標設定を継続しつつ，毎日のミーティングで空床状況を共有するなど，患者確保と病床管理の適正化に努めるとともに，病棟の構成診療科の見直しを図り効率的な病床運営に取り組んだ 病床利用率は，令和4年度の71.3%より6.1ポイント上昇し，77.4%となった 1日当たり入院患者数は263.2人となり，令和4年度の242.6人と比べ20.6人増加した 	B	B	B	C	B	B	B
		診療部門と医事課の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 医療DXの推進や電子処方箋について医局会議で説明し，肝炎検査を行った患者の調査，小児抗菌薬適正使用加算，外来栄養食事指導料に関する勉強会を開催するなど，診療部門との連携を推進した 	A	A	A	B	B	B	C
		未収金対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度から実施している弁護士法人への未収金徴収業務の一部委託や医事課職員による訪問徴収等を継続するとともに，支払困難者への積極的な面談による支払計画の立案とその実行によって回収につなげることができた 令和5年度から，未収となりやすい救急外来受診患者に対する支払方法として，クレジットカード決済を導入したことで，未収金発生防止につなげることができた 令和5年度当初における過年度未収金58,829千円に対する徴収額は40,085千円となり，回収率は前年度より7.5ポイント上昇し68.1%となった 	A	A	A	A	B	C	C
		市民への検診啓発	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に引き続き一般健診及び脳ドックに対応したほか，船員保険組合と共済組合への健診対応を再開したことにより，令和5年度の実受診者数は合計218人となり，令和4年度の157人と比べ61人増加した 一方で，令和3年度から担当医不在により受入れを停止していた人間ドックや船員保険生活習慣病予防健診について，院内で担当医の調整を図り，令和5年度から再開したものの，検査体制の整備等は継続課題となっている 	C	C	C	C	C	C	C

医薬品・診療材料の購入に対するベンチマークシステムの活用や医療機器整備の厳格審査の徹底と適正金額による調達、医療機器中央管理化の推進に取り組みました

市立病院 経営の効率化に向けた取組（2）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実施状況	各年度の評価						
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	費用削減策 医薬品、診療材料、物品購入額の低減化	<p>【医薬品】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医薬品購入金額の低減に向け、東北大学病院等近隣の高度医療機関の取組状況と歩調を合わせながら、各診療科と薬剤科が協力し、後発医薬品及びバイオ後続品※への切替を継続した結果、令和5年度末の時点で、後発医薬品への切替割合は使用量ベースで86.3%、バイオ後続品は17薬品を採用しており、切替割合は採用品目数ベースで68%となった 医薬品の納入金額については、引き続き全国自治体病院協議会の医薬品ベンチマーク分析システムを活用し、ベンチマークの値引率を参考に価格交渉を実施した <p>【診療材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療材料共同購買サービス及びベンチマークシステムを活用した価格交渉、既存の診療材料の共同購買品への切替えに取り組んだ 医療材料管理委員会を中心とした採用品目の整理による過剰在庫の削減等に取り組んだ結果、令和4年度の年間約743万円を大きく上回り、約1,159万円の削減効果を実現した <p>【医療機器】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器整備委員会において、整備要望機器を厳格に審査するとともに、適正価格での購入に向けた入札の実施に取り組んだ。令和5年度は、医療機器購入申請54件のうち28件を購入（見送り件数26件、約2.16億円の見送り）し、落札率（落札金額÷予定価格）は99.3%となった 	A	A	A	A	B	B	C
	内視鏡等の中央化	<ul style="list-style-type: none"> これまでに中央管理化した医療機器を継続管理するとともに、新たに経腸栄養用輸液ポンプ2台、人工呼吸器4台を中央管理化した 各部署の生体情報監視モニターの巡回点検及びメーカーと連携した修理対応等に取り組む、医療機器の適切な維持・管理に努めた 	B	B	B	B	A	A	A

※ バイオ後続品：先行バイオ医薬品と同等・同質の品質、有効性及び安全性を有する医薬品

患者満足度調査や外来待ち時間調査を実施し、サービス向上の取組状況をモニタリングするとともに、令和6年度に受審する病院機能評価の準備を通じ、医療の質・サービス向上に取り組みました

市立病院 経営の効率化に向けた取組（3）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の取組状況	R5年度実績数値	各年度の評価							
				R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	
市立病院	サービス向上策	患者満足度調査	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に実施した患者満足度調査（外来71.7点、入院83.8点）と比較し、外来は1.0ポイント向上した72.7点、入院は1.6ポイント低下し82.2点となった。外来は、総合評価点数で80点以上の割合が増加しており、満足度が総合的には向上していることがうかがえた。一方、入院については、総合評価点数で80点以上の患者割合が減少したものの、合格点としている70点以上の評価を受けた 	外来：72.7点 入院：82.2点	A	A	B	E	C	C	E
		待ち時間短縮	<ul style="list-style-type: none"> 予約診療制の徹底を図り、外来患者の会計が混み合う時間帯は会計入力の職員を加配するなど、待ち時間短縮に向けた取組を継続した 受付から会計までの平均所要時間は、平成29年11月時点（新病院開院当初）の2時間46分より42分間短縮され、2時間4分となった。なお、予約受診の患者の予約時間から会計までの平均所要時間は、1時間57分より21分間短縮され、1時間36分となっており、待ち時間の短縮が進んでいる 	令和5年12月実績 2時間4分	A	A	A	A	A	A	A
		病院機能評価受審検討	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年10月の受審に向け、全職員に病院機能評価受審の目的を伝えながら、部署ごとに課題解決等の準備・改善に取り組んだ 	—	A	A	A	B	D	D	D
		ボランティアの活用	<ul style="list-style-type: none"> 総合患者支援センター（がん相談支援）での相談業務におけるピアサポーター※の活用に向け、県内のがん連携拠点病院における活用状況の聞き取り調査等を実施し、ピアサポーターと話し合いを行った 	—	C	D	D	D	D	E	E

※ ピアサポーター：自らも障害や疾病等の経験をもち、それらの経験を活かしながら、対人援助の現場等で働き、障害や疾病等の中にある仲間（ピア）のために支援やサービスを提供する者

新型コロナウイルス感染症対策補助金の減額もあり、経常収支は赤字となりましたが、令和4年度以上の医業収益を確保したことで、参考値の経常収支比率96.6%を上回ることができました

市立病院 収支改善に係る数値目標について（1）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実績状況	R5年度実績数値	各年度の評価						
				R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	収支改善	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実績の106.3%と比べ、7.5ポイント低下し、98.8%となった 過去最高の医業収益となったものの、令和5年10月以降、新型コロナウイルス感染症対策の補助金（病床確保料）が減額されたことによる医業外収益の減収の影響が大きく、約1.26億円の赤字となった 	98.8%	A	A	A	A	B	B	C
		<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実績の82.0%と比べ、1.5ポイント上昇し、83.5%となった 入院延患者数が令和4年度より7,794人（1日当たり21.3人）増加したことに加え、外来も患者数、診療単価ともに令和4年度を上回ったことにより、医業収益が約2.19億円増収した 	83.5%	B	B	B	B	B	C	C
	経費削減	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実績の53.6%と比べ、0.6ポイント改善し、53.0%となった 参考値の46.2%からは6.8ポイントの乖離があるが、主な要因は「地方公営企業決算の状況」において、会計年度任用職員分の給与が職員給与費に計上されることになったため、常勤職員のみの場合、47.6%である 職員給与費は、医療技術職の増員、看護師の時間外手当の増加により、令和4年度に比べ約67百万円増加したが、医業収益も増加しており、職員給与費対医業収益比率は改善した 	53.0%	B	B	B	B	B	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実績の22.3%と比べ0.4ポイント悪化し、22.7%となったが、薬剤科主導による後発医薬品等への切替えや医療材料管理委員会によるコスト削減の取組を継続した 	22.7%	A	A	A	A	B	B	C

令和5年度は令和4年度より患者を確保できたことで、入院収益・外来収益がともに増加しています

市立病院 収支改善に係る数値目標について（2）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実績状況	R5年度実績数値	各年度の評価						
				R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	病床利用率 参考値：92.1%	<ul style="list-style-type: none"> 各病棟で目標患者数の設定を継続するとともに、看護部内で入退院情報の共有を図ることで、ベッドコントロールに取り組み、病床利用率の適正化に努めた結果、令和5年度の1日当たり入院患者数は263.2人（令和4年実績：242.6人）となっており、令和4年度を大きく上回る患者を確保できた 	77.4%	B	B	B	C	B	C	C
	1日当たり入院患者数 参考値：313人	<ul style="list-style-type: none"> 5階西病棟はコロナウイルス感染症病棟としての運用に続き、地域包括ケア病棟の施設基準を満たすための実績を積むために、制限された運用を余儀なくされたことから、病床利用率が34.4%となった 5階西病棟を除いた病床利用率は85.2%となった 入院単価は令和4年度実績の52,175円を下回り、49,153円となった 	263.2人	B	B	B	C	B	C	C
	1日当たり外来患者数 参考値：1,015人	<ul style="list-style-type: none"> 国・県が推進する医療機能の分化を踏まえ、病状の安定している患者は地域のかかりつけ医へ積極的に逆紹介を進めると同時に、当院で診療が必要な患者には適切な診察・検査を行うなど、病診連携が進んでいることから、1日当たり847.4人となった 外来診療単価は令和4年度実績15,569円から更に向上し、16,027円となった 	847.4人	B	B	B	B	B	B	C
	経営安定 医師数（研修医含む） 参考値：54人	<ul style="list-style-type: none"> 市長・事業管理者が中心となって東北大学医学部等を訪問し、産婦人科医や総合診療医の派遣を依頼した 研修医や専攻医の確保に向けては、医学生への病院見学の受入れや合同説明会へ参加し、病院のPRを実施した 	59人	A	A	A	A	A	A	A

新型コロナウイルス感染症対策の補助金が減額されたこともあり純損失1.26億円の赤字決算となりました

市立病院の損益等の推移

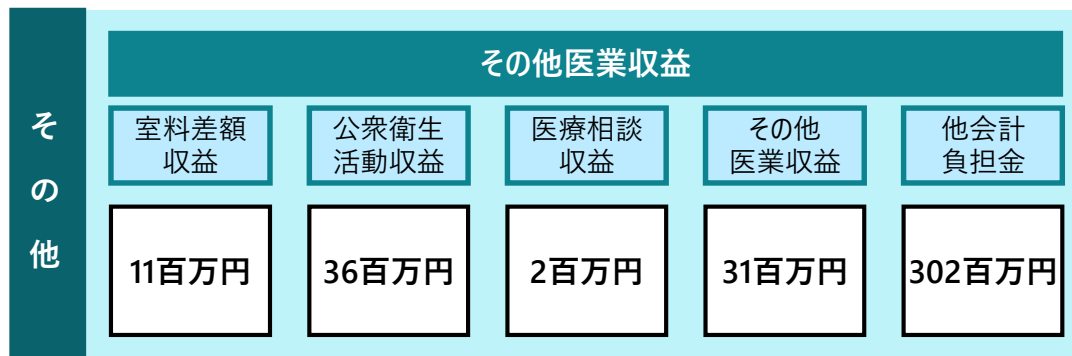
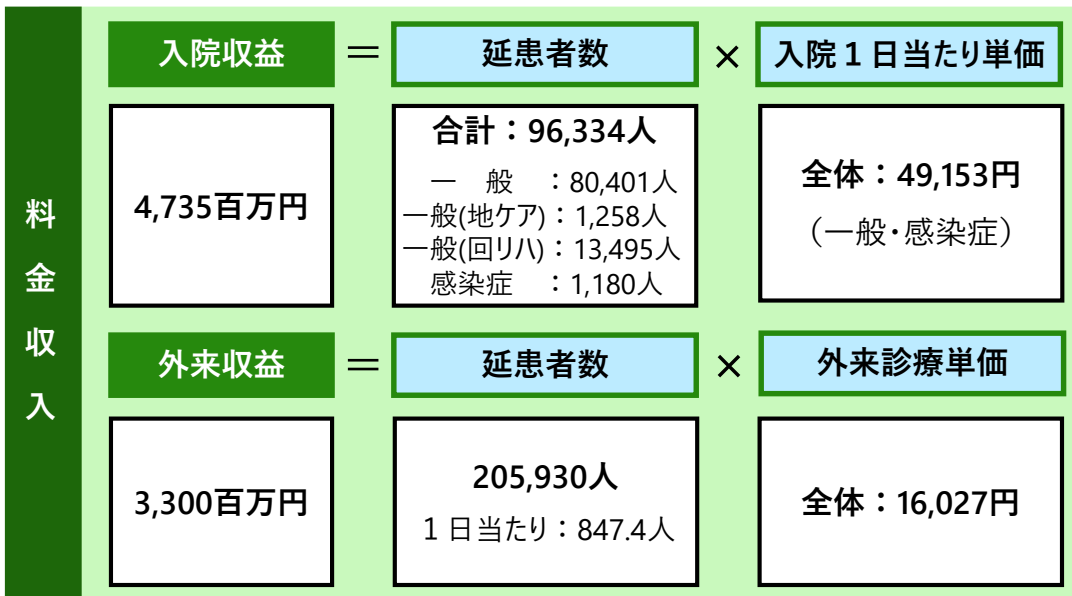
損益計算書 (単位：百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
医業収益	7,505	7,410	7,756	7,943	7,559	7,972	8,199	8,418
医業費用	8,442	8,707	10,121	10,074	9,785	9,928	10,002	10,078
医業損益	△937	△1,297	△2,365	△2,130	△2,226	△1,957	△1,803	△1,660
医業収支比率	88.9%	85.1%	76.6%	78.8%	77.2%	80.3%	82.0%	83.5%
医業外収益	701	742	2,023	1,826	2,467	3,389	3,041	2,118
医業外費用	444	499	544	578	592	566	568	584
経常損益	△680	△1,054	△886	△882	△352	867	670	△126
経常収支比率	92.3%	88.6%	91.7%	91.7%	96.6%	108.3%	106.3%	98.8%
特別利益	0	1	1	0	1,266	0	0	0
特別損失	16	57	36	7	1,775	107	12	0
当期純利益	△696	△1,110	△921	△889	△860	760	658	△126
資本剰余金の処分と 資本金の減少	-	-	-	-	-	3,802	-	-
当期末処分利益	△7,693	△8,803	△9,724	△10,614	△11,474	△6,911	△6,253	△6,379

※端数の影響により、数値に差異が生ずることがあります

急性期病床と回復期病床の入院患者数が増加し、入院前検査等による外来単価の向上もあり、医業収益は令和4年度を上回り過去最高を更新しました

市立病院 収入の内訳（令和5年度実績）

収入	R5年度実績 (単位：百万円)
1 医業収益	8,418
(1) 料金収入	8,035
(2) その他	383
うち他会計負担金	302
2 医業外収益	2,118
(1) 他会計負担金・補助金	778
うち基準外繰入	6
薬剤師等奨学金返還支援補助分	1.8
医師住宅解体分	4.2
(2) 国(県)補助金	290
(3) 長期前受金戻入	977
(4) その他(附帯事業収益含む)	73
経常収益	10,536



※端数の影響により、数値に差異が生ずることがあります

令和5年度は入院単価が令和4年度と比べ低下し49,153円<<税抜>>（49,155円<<税込>>）となりましたが、入院延患者数が増加したこともあり、入院収益は対前年比102.5%となりました

市立病院 令和3年度～令和5年度の診療科別収益推移（入院）

※調定額を基に作製しており、金額は税込です

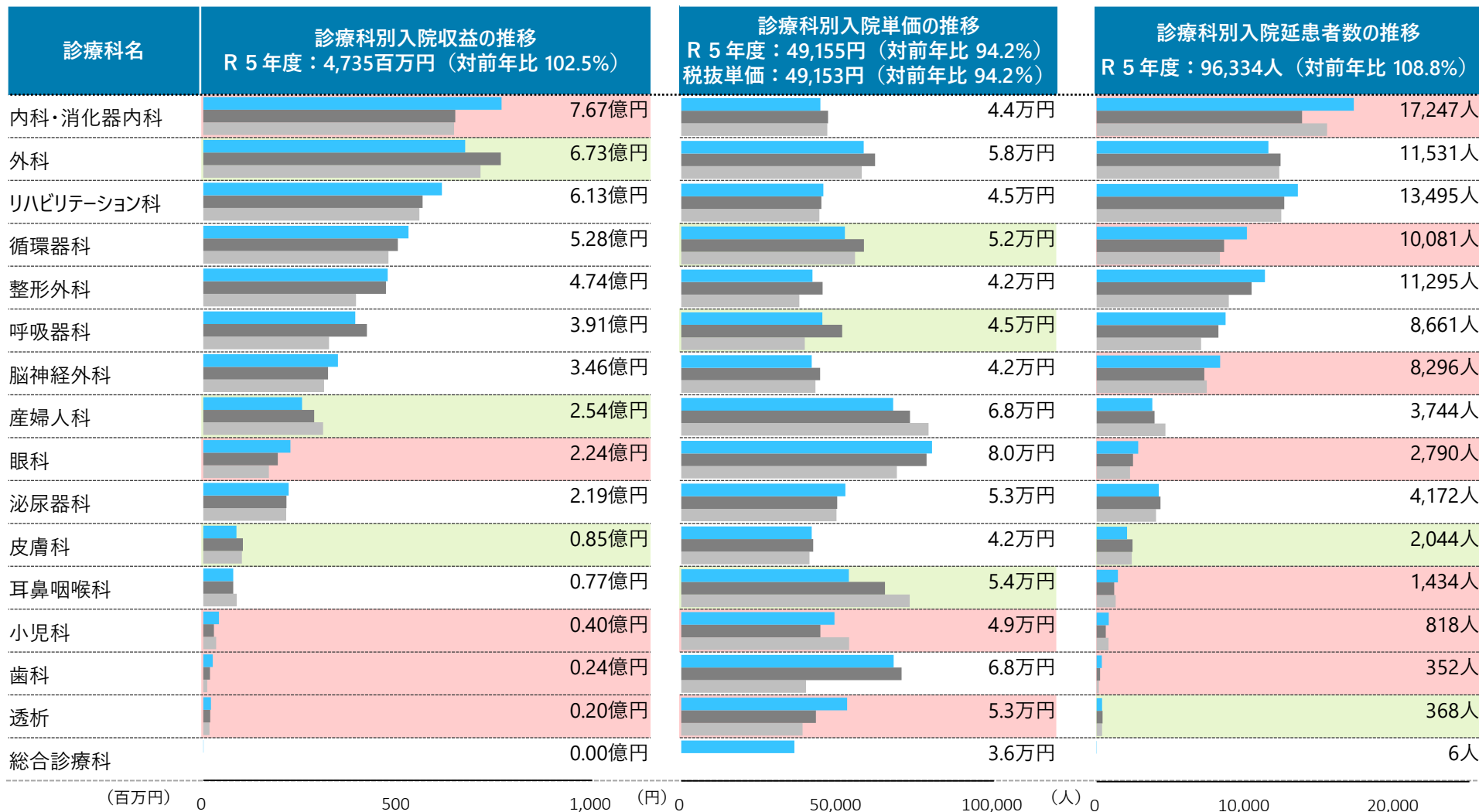
対前年比10%以上アップ

■ R5年度

対前年比10%以上ダウン

■ R4年度

■ R3年度



※入院患者1人1日当たりの診療収益を「入院単価」としています

予定入院患者に対する入院前検査の推進や治療が完結した患者の逆紹介等， 外来での一層丁寧な診療と病診連携を継続し， 令和5年度の外来単価は過去最高の16,027円<税抜>（16,031円<税込>）となりました

市立病院 令和3年度～令和5年度の診療科別収益推移（外来）

※調定額を基に作製しており，金額は税込です

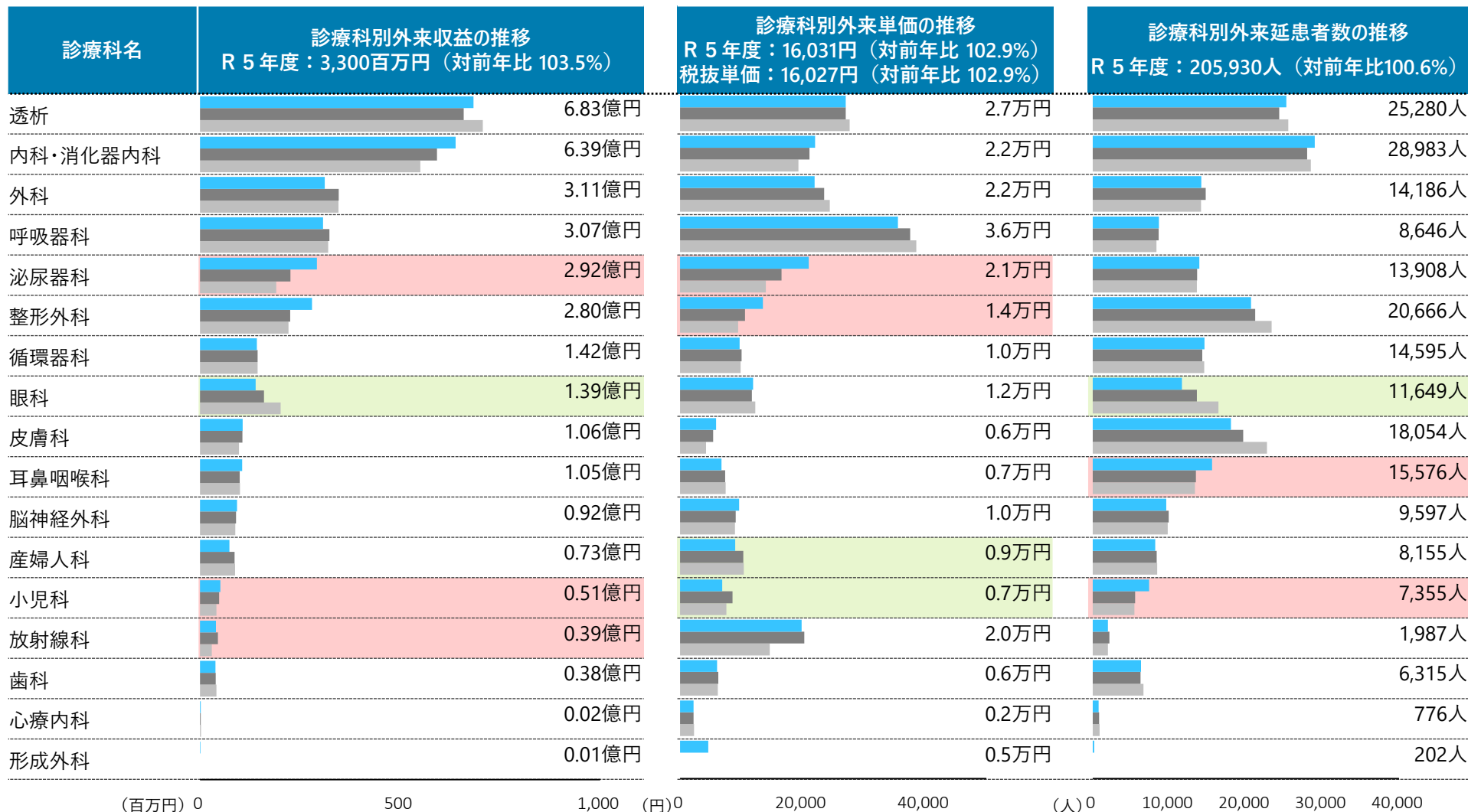
対前年比10%以上アップ

R5年度

対前年比10%以上ダウン

R4年度

R3年度



医療技術職の増員等による常勤職員給与費の増加や、委託料や修繕費の増加により、費用全体も増加となりました

市立病院 費用の内訳（令和5年度実績）

費用	R5年度実績	
	金額 (単位：百万円)	対医業収益比率
1 医業費用	10,078	119.7%
(1) 職員給与費	4,464	53.0%
(2) 材料費	1,912	22.7%
(3) 経費	2,424	28.8%
(4) 減価償却費	1,249	14.8%
(5) 資産減耗費	15	0.2%
(6) 研究研修費	14	0.2%
2 医業外費用	584	6.9%
(1) 支払利息	22	0.3%
(2) 看護学院費	102	1.2%
(3) その他	460	5.5%
経常費用	10,662	126.7%

職員給与費	常勤職員	+	会計年度任用職員
	4,007百万円 (対前年：+43百万円) 対医業収益比率：47.6%		457百万円 (対前年：+23百万円)

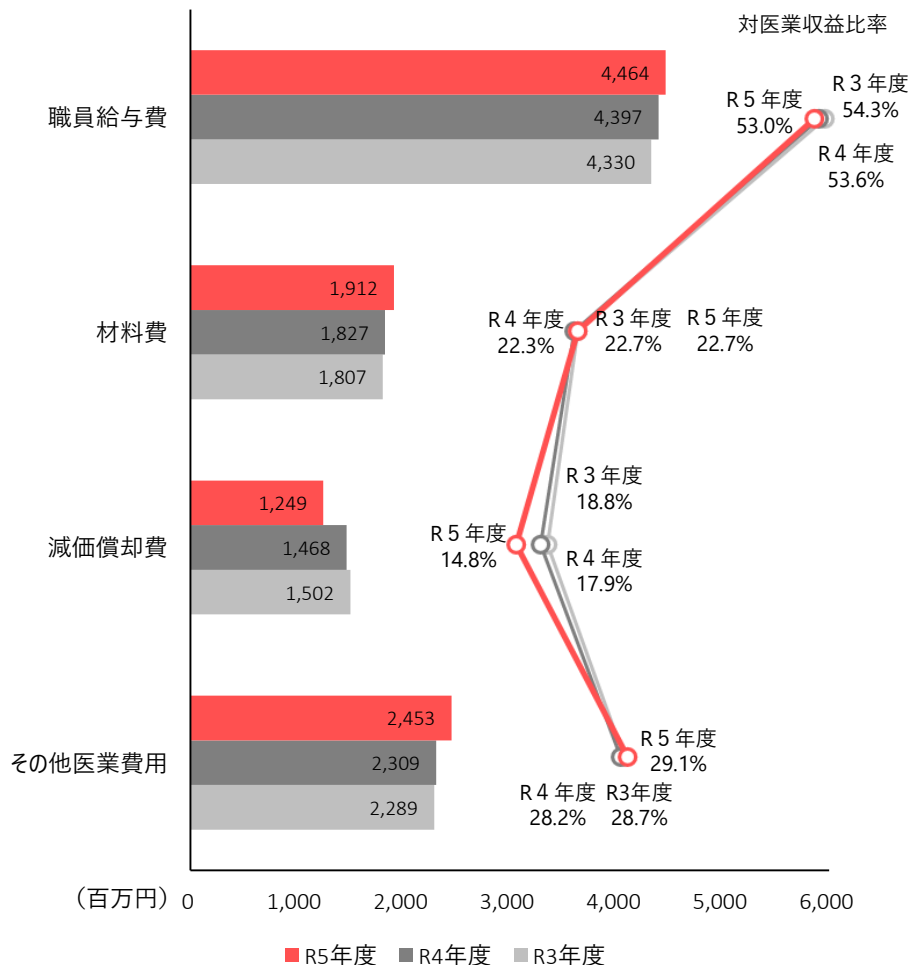
材料費	薬品費用		+	その他医療材料	+	給食材料費
	投薬	注射				
	134百万円 (対前年：-7百万円)	1,093百万円 (対前年：+101百万円)		684百万円 (対前年：-10百万円)		0.8百万円 (対前年：-0.5百万円)

経費	委託料	光熱水費	燃料費	修繕費	その他経費
	1,274百万円 (対前年：+70百万円)	130百万円 (対前年：-5百万円)	44百万円 (対前年：-0.4百万円)	49百万円 (対前年：+19百万円)	927百万円 (対前年：+51百万円)

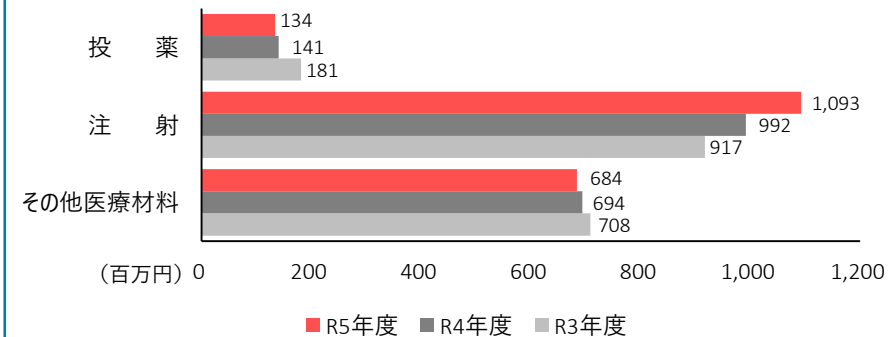
※端数の影響により、数値に差異が生ずることがあります

収益増に伴い、薬品費は増加しましたが、診療材料のコスト削減等の取組を継続したことで、診療材料費は減少しました

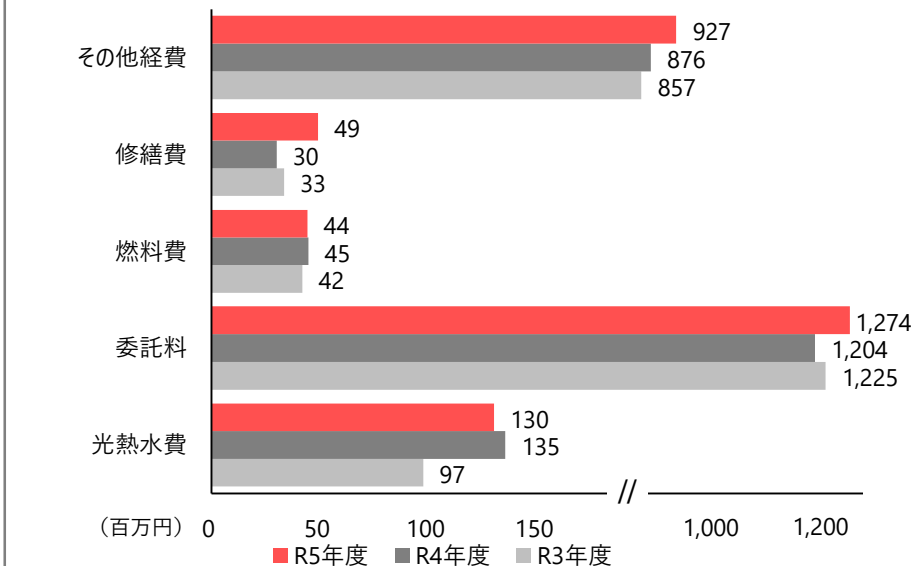
市立病院 令和3年度～令和5年度 費用内訳別推移



材料費（給食材料費を除く）の内訳ごとの年度推移



その他医業費用のうち、経費の内訳ごとの年度推移



気仙沼市立本吉病院

令和5年度もこれまでと同様、 確実な診療報酬の算定と材料費の節減に取り組みました

本吉病院 経営の効率化に向けた取組（1）

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R5年度の取組状況	各年度の評価						
			R5 年度	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R元 年度	H30 年度	H29 年度
本吉病院	診療部門と医事 部門の連携	<ul style="list-style-type: none"> 入院1日当たり単価の向上を目的に、看護補助加算に対する夜間看護体制加算・看護補助体制充実加算の届出を行った 訪問看護や訪問リハビリに関する勉強会を開催した 	A	B	B	B	A	A	B
	収益向上策 未収金対策の 徹底	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年3月末時点の患者負担未収金額は1,025千円となり、令和4年度と比較し469千円減少した。また、当該年度発生未収金も585千円と単年での未収金発生は少額に抑えられ、回収率も向上した 	A	A	A	A	A	A	A
	市民への検診啓 発	<ul style="list-style-type: none"> 例年と同様に特定健診等の受診者に対応し、地域住民の疾病予防に努めた 定期受診している方にも、健診機会時に受診するように勧めた 	C	C	C	C	C	C	C
	費用削減策 医薬品、診療 材料の節減	<ul style="list-style-type: none"> 市立病院が活用している診療材料共同購入へ参加するとともに、後発医薬品を採用し、費用の削減に努めた 材料費は令和4年度より4百万円削減できたが、医業収益の減少が影響したこともあり、材料費対医業収益比率は令和4年度より1.2ポイント悪化した12.9%となった 	A	A	A	A	A	A	A

令和5年度に外来患者・在宅患者に対して満足度調査を実施し、満足度及び改善要望などを確認することができました

本吉病院 経営の効率化に向けた取組（2）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の取組状況	各年度の評価						
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	患者満足度調査	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度から実施できていなかった患者満足度調査を、外来患者及び在宅患者を対象に実施した 外来患者の総合評価は平均80.1点、在宅患者の総合評価は平均81.7点となっており、外来及び在宅患者の大多数に満足いただけている様子を確認することができた 令和6年度以降も患者満足度調査を継続的に実施し、サービスの改善、患者からの改善要望に対して取り組むこととした 	A	E	E	B	A	C	E
	待ち時間短縮	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の院内会議で外来での待ち時間の状況を全職員で確認し、改善に努めた 令和5年度は待合室のエアコンを修繕するとともに、日常的に積極的な換気を心掛け、外来患者の待ち時間の快適性の向上に取り組んだ 令和5年度実績は、予約患者が令和4年度より3分間短縮されて平均25分間、予約外患者が4分間短縮されて平均51分間だった 	A	B	B	B	B	C	C

外来収益，入院収益共に令和4年度と比べ減少したことで，各経営指標が参考値を下回りました

本吉病院 収支改善に係る数値目標について（1）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の取組状況	R5年度実績数値	各年度の評価						
				R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	収支改善 経常収支比率 参考値：100.1%	<ul style="list-style-type: none"> 入院収益及び外来収益の減少に伴い，医業収益が令和4年度より73,687千円減少した 経常収支比率は，令和4年度実績の102.6%と比べ3.8ポイント減少し，98.8%となった 令和6年4月の市立病院と本吉病院の入院機能再編に伴い，病棟スタッフの異動や入院患者の搬送を考慮し，病床利用の調整を行ったこと等が影響した 	98.8%	B	A	A	B	B	A	A
	収支改善 医業収支比率 参考値：60.6%	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度と比較し，入院患者数が1日当たり2.8人減少したため，入院収益は21,293千円減少した 外来患者数についても，令和4年度と比較し1日当たり12.9人減少，新型コロナウイルス感染症に対する加算点数が廃止され外来単価が617円低下したことで，外来収益が43,951千円減少した 入院及び外来収益の減少の影響が大きく，医業収支比率は令和4年度と比較し12.1ポイント低下し，59.7%となった 	59.7%	B	A	A	A	A	A	A
	経費削減 職員給与費対医業収益比率 参考値：95.1%	<ul style="list-style-type: none"> 限られた人員体制で入院，外来，在宅医療まで幅広く対応しており，各職員の負担は大きいものの，職員給与費の増大は医師・看護師の増員分に伴う部分に抑えられている。しかしながら，医業収益が減少したため，職員給与費対医業収益比率は令和4年度と比較し18.8ポイント悪化し，105.6%となった 	105.6%	B	A	A	B	A	A	B

医療機能再編に向けた準備を進める中，入院患者数は令和4年度より微減となったものの，限られた人員体制の中で，外来患者数は1日当たり5人増となった

本吉病院 収支改善に係る数値目標について（2）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実績状況	R5年度実績数値	各年度の評価							
				R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	
本吉病院	収入確保	病床利用率 参考値：72.0%	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年4月の市立病院と本吉病院の入院機能再編に伴い，病棟スタッフの異動や入院患者の搬送を考慮し，病床利用の調整を行ったこと等が影響し，令和4年度実績の70.9%から10.5ポイント低下し60.4%となった 1日当たり入院患者数も，令和4年度実績の19.1人から16.3人に減少した 	60.4%	B	B	A	A	A	A	A
		1日当たり入院患者数 参考値：18人		16.3人	B	A	A	A	A	A	A
		1日当たり外来患者数 参考値：115人		96.1人	B	B	B	B	A	A	A
	経営安定化	医師数 (研修医含む) 参考値：5人	<ul style="list-style-type: none"> 総合診療医の確保と育成のため，院長が東北大学及び東北医科薬科大学と調整し，東北大学と協同での総合診療医育成プログラムの運営を行っており，令和5年度は東北大学病院との連携で総合診療専攻医1名を受け入れた 医師確保に関して，宮城県との連携強化で医師の紹介を受け，令和6年度から1名赴任予定 	5人	A	B	B	B	B	B	B

医業収益が減少したことにより、令和5年度は経常損失2百万円の赤字決算となりました

本吉病院の損益等の推移

損益計算書 (単位：百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
医業収益	358	398	424	397	376	422	444	371
医業費用	583	604	595	590	587	602	619	621
医業損益	△225	△206	△171	△193	△212	△180	△175	△250
医業収支比率	61.4%	65.9%	71.3%	67.3%	64.0%	70.1%	71.8%	59.7%
医業外収益	249	223	202	189	227	227	210	262
医業外費用	13	14	15	15	17	17	19	20
経常損益	11	3	15	△19	△2	30	16	△8
経常収支比率	101.8%	100.5%	102.6%	96.9%	99.7%	104.8%	102.6%	98.8%
特別利益	1	0	0	0	0	3	0	6
特別損失	0	0	0	0	0	0	1	0
当期純利益	12	3	16	△19	△1	33	16	△2
未処分利益剰余金 変動額							6	
当期末処分利益	△114	△111	△95	△114	△115	△82	△60	△59

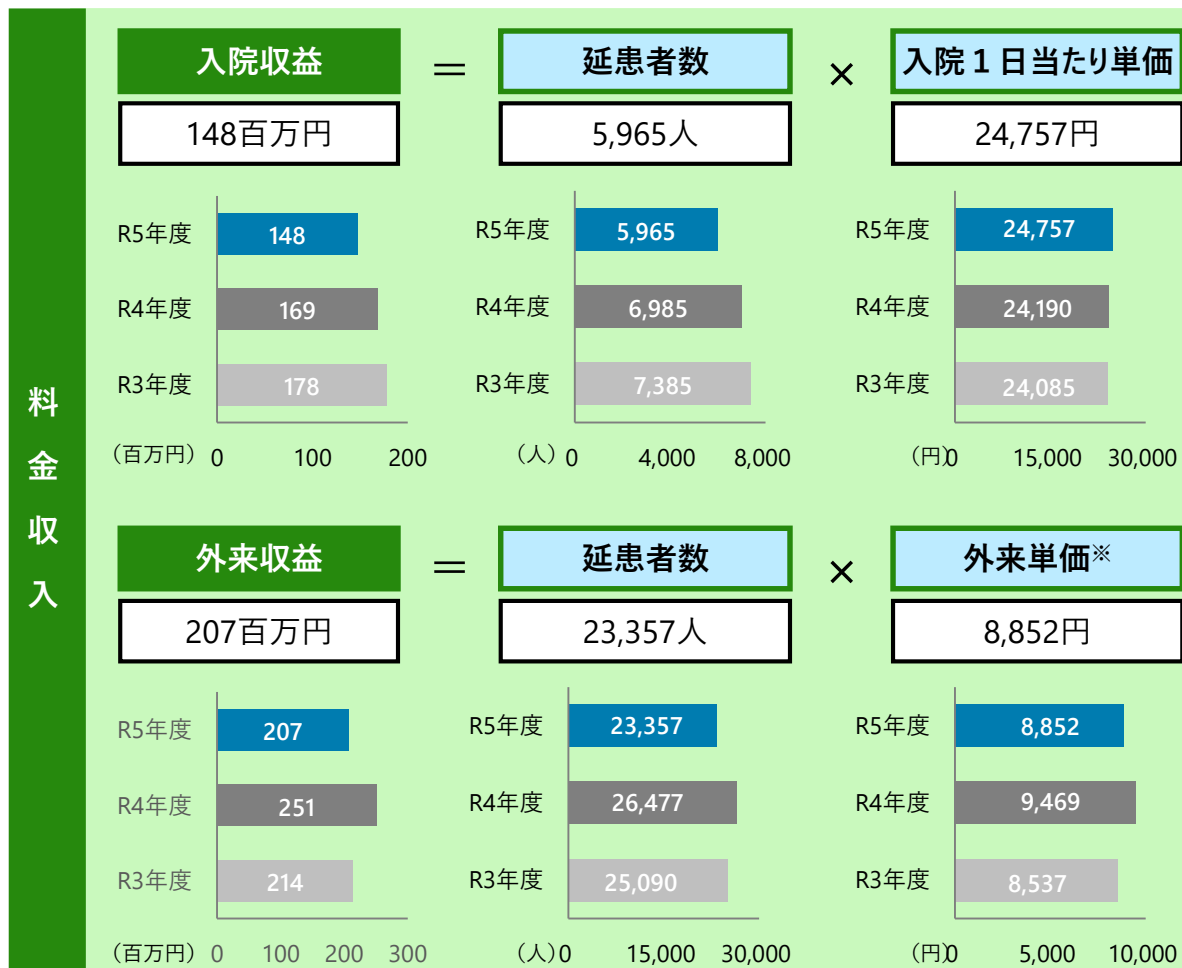
※端数の影響により、数値に差異が生ずることがあります

1日当たり入院単価以外の経営指標が令和4年度より低下したため、医業収益が減少しました

本吉病院 収入の内訳（令和5年度実績）

収入	R5年度実績 (単位：百万円)
1 医業収益	371
(1) 料金収入	354
(2) その他	16
うち他会計負担金	0
2 医業外収益	262
(1) 他会計負担金・補助金	249
うち基準外繰入	0
任期付職員人件費	0
(2) 国（県）補助金	2
(3) 長期前受金戻入	10
(4) その他	1
経常収益	632

端数の影響により、数値に差異が生ずることがあります



※総務省へ報告している令和4年度決算統計を基に作成しており、外来単価が「令和5年度気仙沼市決算書類」と異なります

増加した職員給与費以外の必要経費を抑えられたことにより、令和4年度と同水準の支出となりました

本吉病院 費用の内訳（令和5年度実績）

費用	R5年度実績	
	金額 (単位：百万円)	対医業収益比率
1 医業費用	621	167.4%
(1) 職員給与費	391	105.6%
(2) 材料費	48	12.9%
(3) 経費	152	41.1%
(4) 減価償却費	28	7.7%
(5) 資産減耗費	0.2	0.1%
(6) 研究研修費	0.3	0.1%
2 医業外費用	20	5.3%
(1) 支払利息	1	0.1%
(2) 看護学院費	0	0%
(3) その他	19	5.2%
経常費用	640	172.8%

職員給与費	常勤職員	+	会計年度任用職員
	338百万円 (対前年：+2百万円) 対医業収益比率：91.3%		53百万円 (対前年：+4百万円)

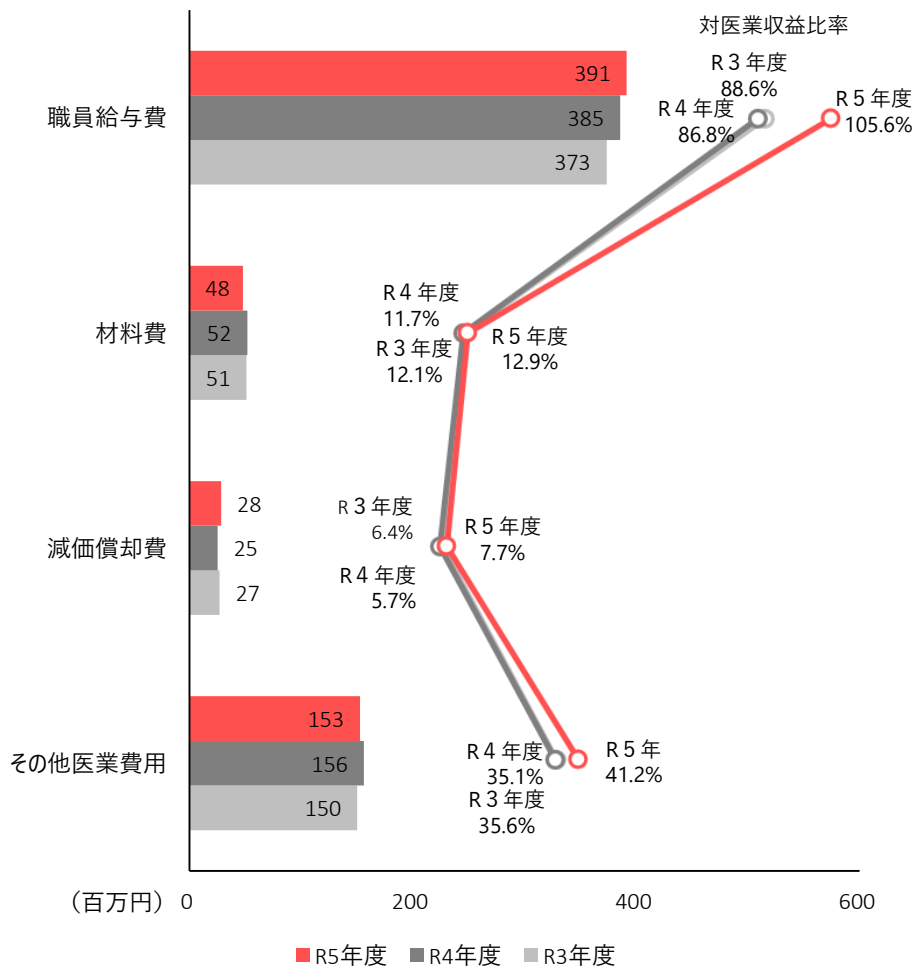
材料費	薬品費用		+	その他医療材料	+	給食材料費
	投薬	注射				
	3.8百万円 (対前年：-1.6百万円)	12.7百万円 (対前年：-0.2百万円)		27.6百万円 (対前年：-0.9百万円)		3.9百万円 (対前年：-1.1百万円)

経費	委託料	光熱水費	燃料費	修繕費	その他経費
	85.4百万円 (対前年：-2.7百万円)	8.7百万円 (対前年：-0.5百万円)	2.2百万円 (対前年：-0百万円)	2.9百万円 (対前年：-1.4百万円)	53.2百万円 (対前年：+1.1百万円)

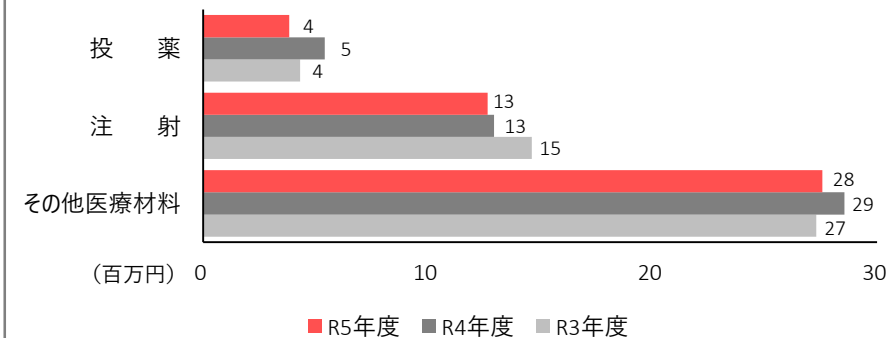
※端数の影響により、数値に差異が生ずることがあります

令和5年度は入院患者数の減少に伴い材料費も減少し、医業収益も減少したことで各科目の医業収益比率は令和4年度と比べ悪化しています

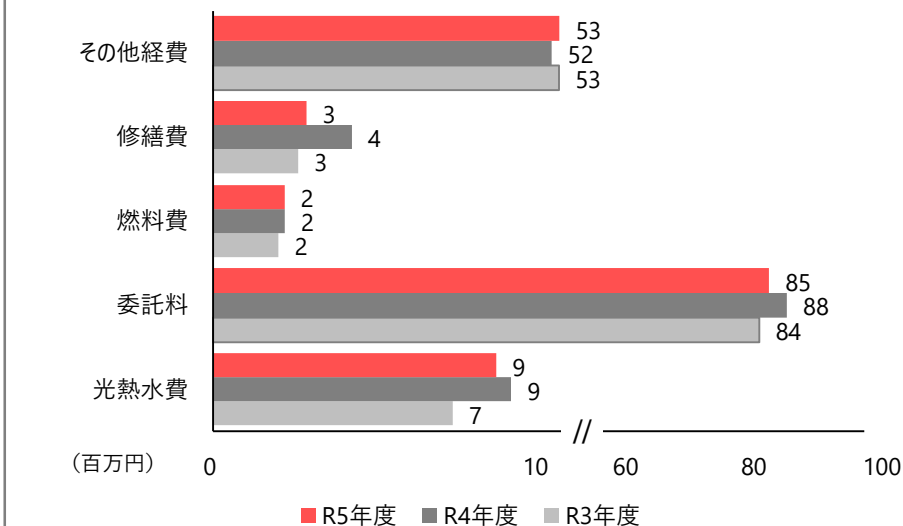
本吉病院 令和3年度～令和5年度 費用内訳別推移



材料費（給食材料費を除く）の内訳ごとの年度推移

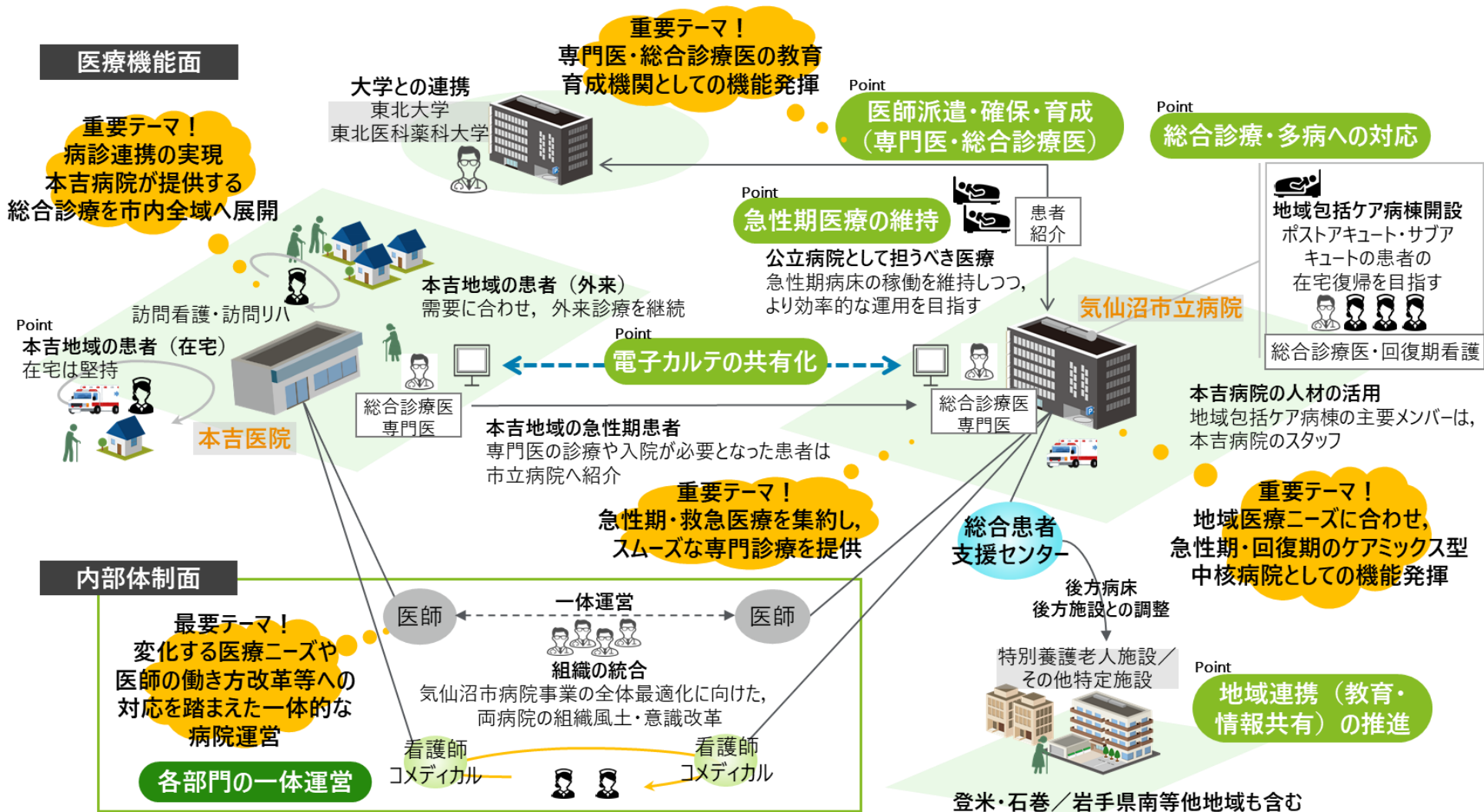


その他医業費用のうち、経費の内訳ごとの年度推移



医療機能再編による気仙沼市病院事業の これからの展望

少子高齢化により変化する医療ニーズや医師の働き方改革等の医療政策へ対応するため、医療機能を再編し、機能分化・連携強化を進めることで、持続可能な地域医療提供体制の確保を図ります。



地域医療構想を踏まえた役割の明確化に 向けた取組状況とその評価

地域の医療ニーズを踏まえ、市立病院は急性期病床の一部を地域包括ケア病床に機能転換し、回復期医療の充実を図り、本吉病院は総合診療を提供する地域のかかりつけ医として、地域医療の充実に取り組みました

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実施状況	各年度の評価						
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	地域医療構想を踏まえ、回復期病床を新設	<ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリテーション病床を年間を通して安定稼働させ、急性期治療後のリハビリテーションを必要とする患者に多くのリハビリを提供した結果、令和5年度の回復期リハビリテーション病棟の1日当たり患者数は平均36.9人となり、令和4年度と比べ2.4人増加した 高齢者の救急疾患や急性期治療完了後の円滑な在宅復帰に向けた様々な調整が必要となる患者の増加を踏まえ、5階西病棟を地域包括ケア病棟に機能転換した 令和6年度以降は本吉病院との医療機能再編と併せて、総合診療科が中心となり地域包括ケア病棟を運営していく予定である 	A	A	A	A	A	A	A
	救急医療、周産期医療などを維持継続し、気仙沼地域の中核的病院として、本地域に不可欠な医療提供体制の維持	<ul style="list-style-type: none"> 感染症、リハビリ、周産期、小児、救急、高度医療など、圏域の中核病院に求められる医療を提供し、必要な体制維持に取り組んだ 特に周産期医療については、市内で安心して分娩ができる体制の維持に向け、市長・事業管理者が中心となり、東北大学からの医師派遣に向けた調整に尽力した 助産師確保にも取り組み、看護部と県看護協会が連携し、東北医科薬科大学や県立こども病院からの派遣を受けた 救急車の受入れは、令和4年度より825件増加し、3,011件だった 	A	A	A	A	A	A	A
本吉病院	在宅医療の推進と市立病院との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 市立病院の在宅療養後方支援病院の承認取得に併せて、在宅診療を受けている患者の登録を進め、在宅診療を提供する病院として、地域医療の充実に取り組んだ 引き続き、市立病院との患者を介した連携に加え、感染対策の向上に向けた共同カンファレンスや訓練の実施にも取り組み、市立2病院の密接な連携と一体的な運営に取り組んだ 	A	A	A	A	A	A	A

持続可能な医療提供体制の構築に向け、地域の医療機関や高齢者施設、行政機関等との連携や認定看護師の派遣等、これまでの取組を継続しました

地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実施状況	各年度の評価						
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	地域医療連携室※を中心とした、保健・医療・福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響によって開催を中止していた地域医療交流会を令和5年11月に開催し、気仙沼・南三陸の医療機関や高齢者施設、ケアマネージャー、行政機関及び陸前高田市と一関市の一部連携医療機関との研修会や情報交換等を通じて、顔の見える連携に努めた 広報紙「つなぐ」を発行し、病院の取組を紹介した 地域包括ケア推進協議会や気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉推進委員会等へ継続して出席し、連携強化に努めた 	A	A	A	A	B	B	C
	介護事業所等の各種研修会に対して認定看護師を講師として派遣	<ul style="list-style-type: none"> 認定看護師を中心に看護学校や医療機関等へ継続して講師派遣しており、院内及び地域全体の医療の質の向上、医療従事者の養成に寄与した 	A	A	A	A	B	B	C
本吉病院	住民との対話の機会を増やし、地域で必要とされる医療の把握に努め適切な対応ができるよう病院の体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年2月9日付けの中間答申「気仙沼市病院事業経営強化プランの策定について」を踏まえ、病院事業局として「市立2病院の医療機能再編に係る住民説明会」を開催し、本吉病院が担ってきた医療機能のこれからについて地域住民に丁寧に説明し、理解を求めるとともに、住民からの要望や意見についても確認できた 	A	A	B	B	B	B	B

※ 現在の総合患者支援センター

医療機器等整備を厳格に審査し、企業債の新規発行を抑えるなど、基準外繰入額の減少に努めてきた結果、令和5年度の基準外繰入は令和4年度より162百万円減少しました

一般会計負担の考え方

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実績状況	R5年度実績数値	各年度の評価						
				R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	「経営安定・健全化に向けた方策と長期収支計画」に基づき、基準外繰入の解消を目指した取組を進める	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器整備委員会で医療機器の購入について厳格に審査を行い、将来の企業債元利償還金の抑制を目指し、令和5年度も企業債の発行を控えた 	令和5年度 企業債発行額 0百万円	A	B	B	B	B	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> 市財政課との調整により資本的収支に繰り入れていた企業債元利償還金及び建設改良費に対する基準外繰入を見送ることにしたため、大きく減少した 	令和5年度基準外繰入額 実績額 29百万円 うち 収益的収支 12百万円 資本的収支 17百万円							
本吉病院	料金収入の増加と経費の抑制に努め、繰入金額の減額を目指した取組を進める	<ul style="list-style-type: none"> 外来患者、入院患者の減少に伴い医業収益が減少したため、令和5年度の繰入金は令和4年度と比べ70百万円増加した 	令和5年度 繰入金実績 259百万円	B	A	A	A	A	A	A

医療機能・品質の向上に向け、引き続き効率的で質の高いリハビリテーションの提供、安心して出産ができる環境整備に取り組みました

医療機能等指標に係る数値目標（市立病院）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の取組状況	R5年度実績数値	各年度の評価						
				R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	リハビリテーション単位数 参考値： 57,000単位	<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション提供単位数は、外来、急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟いずれにおいても増加し、令和4年度実績と比べ13,424単位増加した 若手のリハビリ技師及び経験者採用に積極的に取り組み、体制の強化に努めた 	129,224 単位	A	A	A	A	A	A	A
	医療機能 ／ 医療品質 分娩件数 参考値：440件	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で中断をしていたパパママ教室について、QRコードを読み取り、動画視聴できるようにした 気仙沼市の出産準備教室に合わせ、当院における指導内容を見直した 助産師の外来応援を行い、退院後のフォローアップの強化や、気仙沼市の乳児検診へ小児科とともに介入を行う等、出産・分娩を支援する取組を積極的に進めた 	252件	B	B	B	B	B	B	C
	臨床研修医受入人数 参考値：10人	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医1年目5名、2年目6名を受け入れた 東北大学の卒後研修における地域医療重点プログラムの協力病院となっており、1名（6か月）の研修医を受け入れた 	12人	A	A	A	B	B	A	A

限られた人員体制の中で、医療機能を堅持し、地域医療に貢献しました

医療機能等指標に係る数値目標（本吉病院）

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R5年度の取組状況	R5年度 実績数値	各年度の評価						
				R5 年度	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R元 年度	H30 年度	H29 年度
本吉病院	在宅医療対象患者人数 参考値：120人	<ul style="list-style-type: none"> これまでの取組を継続し、患者・家族が求める医療を提供し、在宅医療を希望する患者を全て受け入れた 患者や家族が希望する医療サービスの1つとして、在宅医療が選択できるよう努めた 	132人	A	A	A	A	A	A	A
	在宅復帰率 参考値：85.0% 在宅復帰率 = 自宅へ退院した患者数 / 自宅からの入院数 - 死亡退院数	<ul style="list-style-type: none"> 食べる支援、誤嚥性肺炎予防、生活の場に帰るためのリハビリに取り組み、退院後の選択肢として、何かあったときは本吉病院で対応することを示しながら在宅復帰を積極的に提示した 課題は、「本人の希望に添った対応をするための家族の気持ち」と「その支え」と考えている 	68.8%	B	B	B	A	A	A	A
	在宅看取率 参考値：30.0% 在宅看取率 = 自宅+施設での看取数 / 全看取数	<ul style="list-style-type: none"> 個々のケースに合せた支える医療の下、在宅で看取ができる体制を構築し、積極的活用を心掛けており、患者本人・家族の状況変化にも柔軟に対応しながら、納得していただけるよう全職員が意識し取り組んだ 	46%	A	B	A	A	A	A	A
	臨床研修医受入人数 参考値：20人 地域医療分野での1か月間研修を1人と数える	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医の2年次地域医療研修（1か月）を12人受け入れた。また、医学生の地域医療実習も積極的に受け入れた 	12人	B	B	C	C	A	A	A

市立2病院の医療機能再編に係る住民説明会を実施し、患者や地域住民の不安解消に努めながら本吉病院の診療所化に向けた準備を進めてきました

住民の理解のための取組

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の取組状況	各年度の評価						
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	回復期リハビリテーション病棟の機能について、市民の理解を深めるよう広報していく	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年2月9日付けの中間答申「気仙沼市病院事業経営強化プランの策定について」を踏まえ、病院事業局として「市立2病院の医療機能再編に係る住民説明会」を開催し、本吉病院が担ってきた医療機能のこれからについて地域住民に丁寧に説明し、理解を求めるとともに、住民からの要望や意見についても確認を行った あわせて、回復期リハビリテーション病棟は、対象疾病（脳疾患、心疾患、整形疾患など）による入棟制限があり、在宅や介護施設で療養している患者の急性増悪時の受入れ（サブアキュート医療）が困難であることから、地域の医療ニーズの変化にあわせた地域包括ケア病棟の必要性を説明した 	A	A	A	E	A	B	B
		<ul style="list-style-type: none"> 医療機能再編を進めるに当たり、病院を取り巻く背景や医療ニーズの変化等による再編の必要性、将来の展望など、7か月にわたり市広報に記事を連載し、市内全域に周知を図った 引き続き、住民向けの「市民医学講座」や病院指標等の病院情報を、ホームページを通して積極的に公開したり、外来待合に設置した電子広告板にて、各種宣言や医療情報等の提供を継続した 							
本吉病院	本吉病院が行う在宅医療の取組について、本吉病院の取組等を周知して市民の理解を深めるよう努めていく	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年2月9日付けの中間答申「気仙沼市病院事業経営強化プランの策定について」を踏まえ、病院事業局として「市立2病院の医療機能再編に係る住民説明会」を開催し、本吉病院が担ってきた医療機能のこれからについて地域住民に丁寧に説明し、理解を求めるとともに、住民からの要望や意見についても確認を行った 	A	A	B	B	B	B	B

再編・ネットワーク化に向けた取組状況と その評価

市立2病院の医療機能再編に取り組みました

再編・ネットワーク化について

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の取組状況	各年度の評価						
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	<p>高度急性期は他の医療圏とも連携をしながら急性期を中心に回復期まで対応することで、安心でより良い地域医療を提供</p> <p>地域の医療機関との連携を緊密にしながら医療情報の共有化を充実し、物流等の効率化の検討を進める</p>	<p>【医療機能再編について】</p> <p>少子高齢化に伴う医療ニーズの変化、人口減少に伴う働き手不足や令和6年4月から始まる医師の働き方改革に対応し、地域における持続可能な医療提供体制を確保するため、令和5年2月9日付け中間答申「市立2病院のあり方について」を踏まえ、医療機能再編に取り組み、令和6年4月からの1病院・1診療所体制の準備を進めた</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 回復期医療の充実のため、市立病院に「地域包括ケア病棟」を設置 ◆ 本吉病院の入院機能を市立病院に集約 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 令和5年4月12日に本吉公民館を会場に本吉地域介護等事業者を対象とした説明会を、同年5月23日にはまなすホールを会場に住民説明会を開催した ▶ 病院を取り巻く背景や医療ニーズの変化等による再編の必要性、将来の展望など、7か月にわたり市広報に記事を連載し、市内全域に周知を図った ▶ 今後、増加が予想される『重症ではないものの入院が必要な高齢の救急患者への対応』や『治療により病状は改善したものの衰弱で元の生活に戻るのが難しくなった患者の在宅復帰に向けた調整』の必要性を踏まえ、地域包括ケア病棟を設置するため、施設基準の届出に向けた準備や病棟の運用ルール等の検討を行った ▶ 地域包括ケア病棟の運用は、本吉病院の病棟担当看護師を中心とする方針に基づき、看護師の人事交流や研修、院長のレクチャーなど、市立病院の環境に順応するための取組を行った ▶ 本吉病院の電子カルテを市立病院に、市立病院の電子カルテを本吉病院に設置し、患者情報の共有化を図った ▶ 令和6年2月から市立病院の5階西病棟を地域包括ケア病棟に機能転換した ◆ 本吉地域のかかりつけ医として、本吉病院の外来機能と在宅医療を継続 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 本吉病院は、地域のかかりつけ医としての役割を果たしていく必要があることから、外来機能や在宅医療を継続するため、外来スタッフの維持に努めた ▶ 在宅療養後方支援病院である市立病院との連携を密に在宅医療を継続した 	A	A	A	A	A	B	B

市立2病院の医療機能再編に取り組みました

再編・ネットワーク化について

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R5年度の実施状況	各年度の評価						
			R5 年度	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R元 年度	H30 年度	H29 年度
本吉病院	地域の医療・福祉関係職員や介護事業所等との連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症で中止としていた、ケアマネジャー・ヘルパー等の担当者が一堂に会した情報交換の場として、月1回ケア会議を再開し、顔の見える連携に努めた 市立2病院の医療機能再編に向け、病院事業局として令和5年4月に本吉地域の介護・福祉事業所の職員を対象とした市立2病院のあり方に係る説明会を開催し、丁寧な説明による理解を求めるとともに、各事業者からの要望や意見についても確認を行った 	A	A	B	B	A	B	B

経営形態の見直しに向けた取組状況と その評価

市民の医療ニーズや医療制度の変化に柔軟に対応しながら、良質な医療の提供の実現に努めました

経営形態の見直しについて

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R5年度の実施状況	各年度の評価							
			R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	
市立病院	新病院開院後のH30年度に「（仮称）市立病院経営形態検討委員会」を立ち上げ、相応しい経営形態について議論を進めていく	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の気仙沼市病院事業審議会からの答申を踏まえ、令和3年度に「地方公営企業法の全部を適用」することを決定し、計画どおり令和3年4月に全部適用に移行しており、令和5年度に策定した気仙沼市病院事業経営強化プランにおいて、現行の経営形態を維持することにした 								
本吉病院	今後市立病院と一体となって議論を進め、地方公営企業法全部適用の検討を行っていく	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から実施している病院事業局会議を継続的に開催し、相互理解に努めながら、地域包括ケア病棟の開設をはじめとする市立病院と本吉病院の医療機能再編や2病院の一体的な運営に関する事など、今後の連携強化について協議を行うとともに、円滑な医療機能再編に向けた検討を行った 	A	A	A	A	A	A	A	D